

和歌山病院での実習を終えて



桑添 博紀

今回、呼吸器内科の実習の一環で国立病院機構和歌山病院に 1 泊 2 日で実習させていただきました。病院実習で外病院に行って学ぶという機会はあまりないので新鮮な時間でした。

院長である南方先生による胸部 X 線読影のセミナーでは、何が胸部 X 線画像を読み取りにくくして読影に苦手意識を持たせているのか？正常であれば画像でどのように映るのか？などに着目し、自分の頭を最大限に使って考えるよう教わりました。正常をまず知るとは当たり前のことですが、病気をみつけようとするあまりどうしても先に異常な部分を見よう見ようと焦り、かえって病気を捉えることができない状態になっていました。これまで胸部 X 線の所見を読み取ることに苦手意識を感じていましたが、セミナーでその根本的な原理を教えていただき、今までは白黒の画像でしかなかったレントゲン画像に対してこれからは親しみをもって接することができ X 線読影をさらに勉強したいと感じました。この“正常”を考える大切さは、胸部 X 線読影だけではなく多くの事柄に当てはまることなので、これからもまず原点に立ち返って考える意識を持ち続けていこうと思います。

また今回の実習で和歌山県下では唯一の結核病棟を見学させてもらいました。N95 マスクを装着して陰圧室の仕組みや入院している結核患者さんの服薬を実際に自分の目で見ることができ、結核という病気に対する理解が正しく深まったように思います。

最後になりましたが、南方先生や駿田先生を始めとして多くの先生方、職員の方々にお忙しい中ご指導頂き、大変充実した実習となりました。本当にありがとうございました。